

平成 21 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究 (c)  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18592389  
研究課題名 (和文) 乳児期の子どもを育てる親を育児困難感から解放するコミュニケーション技術の開発  
研究課題名 (英文) Development of communications technique that liberates parents who bring up child of infancy from child care difficulty feeling  
研究代表者  
嶋岡 暢希 (SHIMAOKA NOBUKI)  
高知女子大学・看護学部看護学科・講師  
研究者番号：90305813

研究分野：

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護

キーワード：乳児 コミュニケーション 育児困難感 母性看護 家族看護

## 1. 研究計画の概要

本研究では、乳児期の子どもと、その子どもを育てる両親が、お互いの意思疎通を図り、育児困難感を軽減できるコミュニケーション技術を開発することを目的とし、乳児期の親を対象にインタビュー等の調査を行うことにより、乳児期の子どもをもつ親がエンパワーされるコミュニケーションについて明らかにし、そのガイドラインを作成する計画である。

## 2. 研究の進捗状況

インタビューによる調査を行い、現在分析中であるが次のようなことが分かっている。

(1)子どものニーズに対応できない状況が続く、変化がみられない時に、親は「困難感」を感じているが、それについて結果を期待せず、多くの方法、多くのサポート源をもつことで、重大な「困難感」に陥らず対処できていることが明らかになった。

(2)子どもからエンパワーされている親は、常に子どもからのサインを大事にしようとしているが、サインが読み取れなくても、周りの状況や前後の文脈からサインを読み取ろうとし、また読み取れない状況を自分の否であるととらえず、育児の自信が概ね保たれていることが分かった。

以上のようなことを踏まえ、今後データ収集と分析を重ねていく。

## 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

理由：データ収集と分析は行っているが、まだ研究成果の公表にいたっていない。

## 4. 今後の研究の推進方策

インタビューでのデータ収集をしており、データの掘り起こし等に時間もかかるため、アルバイト等での対応を検討する。乳児期の子どもをもつ親という対象を広げるため、病院施設だけでなく、育児サークルや助産院など、データ施設を広げる。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]